



2019-20年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニ

Weekly Report Niigata



2019~20 年度
新潟ロータリークラブ会長

山田 隆一



国際ロータリー

2019-20 年度テーマ

ロータリーは世界をつなぐ

新潟 RC 5 月第 2 例会・書面例会 (2020.5.19) No.3320

(1) 山田 隆一会長挨拶

こんにちは。

二回目の、書面例会となりました。

皆様、コロナ問題対応の中いかがお過ごしでしょうか…。

まずは感染防止策を徹底し、時にはストレスを発散させながら精神的にもお身体にも、気を付けてお過ごし下さい。

さて、この原稿を書いているのは15日(金)の午後です。

昨日14日に政府、安倍首相の「緊急事態宣言39県解除」が決定しました。それを受け本日15日の夕方には花角知事の会見が行われる予定です。

少しずつ、条件付きではありますが、新たな日常が始まりつつあります。

新潟ロータリーでも花角知事の会見の内容を確認しながら、速やかに理事会を開き、例会や通常の活動への検討を始めたと思います。

但し新潟クラブ会員の構成として①高齢者が多い②首都圏との交流が頻繁 という特徴があります。コロナ対応では慎重を期す必要があります。

皆様の安全と健康確保を主旨として、新たな正常な活動を模索し、なるべく速やかに皆様とお会い出来るのを楽しみにしております。

今後もコロナ問題対応の為に、新たな動きや急な変更があるかと思えます。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(2) 新会員の紹介



(株)JTB 新潟支店

支店長 渡辺 浩幸君

ご紹介者 本間 彊

小林 敬直

2月1日付で着任しましたJTB新潟支店の渡辺でございます。昭和45年生まれの新発田出身です。初任地は金沢市、名古屋市・都内の勤務を経て現在に至っております。お陰様で両親は新発田市内に健在、進学以来30年ぶりの新潟ですが皮肉にも単身赴任です。また最近まで息子の少年野球に熱中、子供達の成長に感動する週末休日を過ごして参りましたが、この度の異動を機にあらためて我が郷土新潟の素晴らしい食・歴史・文化の魅力を再認識する機会を沢山つくりたいと思います。ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



ダイダン(株)新潟支店

支店長 麻生 博

御紹介者 高橋 秀松

岡村 健吉

はじめまして。今年度よりダイダン株式会社新潟支店長に着任いたしました麻生博でございます。宜しく申し上げます。今般はじめて事業所経営の執行業務を一任され、30年間のエンジニアリング職から心機一転を図り新潟へ参りました。早く新潟の魅力や文化に触れ地域密着型の事業活動を推進して参りたいと考えておりますのでご指導を賜りますようお願い申し上げます。結びに、一日も早く皆さまにご挨拶できる日を心待ちにしております。

(3) 各種ご寄付の発表

青少年育成基金寄付

新田 幸壽君

(4) ニコニコボックス紹介 (5/12 以降受付分)

・梅津 雅之君 結婚記念日の花と誕生日のワインをダブルで頂戴しありがとうございます。

・大澤 強君 結婚記念日のお花ありがとうございました。毎年、記念日を忘れそうですが、お花を頂き感謝しています。

・辻 和彦君 遅くなりましたが3月26日結婚記念日の際には花をお送りいただきありがとうございました。ロータリー様の粋な計らいのお陰で3月以来コロナで東京の自宅には帰れておりませんが何とか夫婦円満を保っております。皆様とお会い出来る日を楽しみにしています。ありがとうございました。

・新田 幸壽君 結婚記念日の花ありがとうございました。

(5) 幹事報告 (秋山 博一)

5月19日開催の臨時理事会にて、6月9日から条件付きで通常例会を開催する予定となりました。

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

・梅津雅之広報会報雑誌委員長報告

「新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、書面例会となりましたが、この機会を利用してロータリークラブの知識を深める為、小山楯夫ロータリー情報委員長が参加している源流の会副会長で2510地区PDG 塚原房樹さんからの投稿を書面卓話として2回に渡り紹介いたします。

『職業奉仕はロータリーの生命維持装置』 その1

2510地区PDG 塚原房樹(札幌東)

《ビジネスとノンビジネス》

営利組織=ビジネスは利益が結果のすべてです。構成員は利益の中から生活の糧を配分されます。構成員の行動は、利益追求のための行動となります。企業の場合は、「利益」という分かりやすい尺度があるので、利益追求のメカニズムは単純です。どんなに社会的に意義のある活動をしていても、利益を上げられなければ企業は存続できません。しかし、ロータリーは非営利組織=ノンビジネスです。この場合は、利益に相当する明瞭な尺度はありません。つまり、非営利組織(以後NPO)は損益という明確なコンセプトがなく、

ビジョンを共有するロータリアンの「自発的な寄付行為」のみによって支えられています。だからこそ、NPOにはマネジメント以前に大事なものがあります。それはパートナーの自発性を鼓舞するために「多様な物語」をマネジメントに織り込む必要があります。

NPOの無給のスタッフとなったロータリアンは、NPOのパートナーとして、組織の使命達成のために努力を惜しみません。その努力を支えるエネルギー源は、自発的なモチベーションにあります。「ロータリーの目的」(綱領)にあるとおり「奉仕の理念」を奨励し、育むことにあります。彼らの奉仕理念を鼓舞するものは、フェロウシップに裏打ちされた同志としての連帯感です。それは何によって生まれるのでしょうか。

《自発性と連帯感を強めるもの》

どんな組織にも活動を始めた時の神話があります。その「物語」を共有することによって、同志としてのきずなが生まれます。我々はロータリーの物語を消してはなりません。ロータリアンの心を鼓舞し続けて120年を経ても、ロータリー誕生の物語は今も、ロータリアンの胸に熱い灯をともし記憶されています。どのような志でスタートしたのか。誕生の時の難局をどう乗り切ったのか、時代の荒波をどのようにして切り抜けたのか。会員減少の危機を救ったのは何だったのか。「そのような物語が、ミッション達成のためにパートナーとしての連帯感を高め、救いを待つ顧客へのフィードバックを強力なものにしていきます」我々は、より良い世界を築こうと、どれほど多くの不幸な人々に救いの手を差し伸べてきたことでしょうか。その努力を支えてきたエネルギーの源をたどれば、カルバンの職業天職論にまでさかのぼります。天職論に基づき、初期のロータリアンが開発したのは輝かしいロータリー哲学、「職業倫理訓」であり、「決議23-34」でした。1929年の世界大恐慌の中でもロータリアンは、職業倫理訓を信奉してきたおかげで倒産を免れ、ロータリーの職業奉仕の存在価値を世に広く知らしめました。その結果、ロータリーの職業奉仕は不況に強い哲学だと評判になり、入会者が後を絶ちませんでした。職業奉仕はロータリーの生命維持装置です。この認識を忘れてはなりません。NPOのマネジメントに力点を置きすぎると、奉仕の心も干からびそうになる時もあるでしょう。そのような時、ロータリーをロータリーたらしめてきた職業奉仕の輝かしい栄光を我々の心は求めているのです。先輩が築いてきた偉大な幾多の「奉仕の物語」は、我々の心に潤いと力を与えてくれます。(2020年05月06日)

5月19日 臨時理事会報告 出席者10名

1 今後のコロナ対応について

例会を再開するとしての条件:

- ・三密を避ける 会場は広いところ(サンマルコなど)、 座る方向 講演会方式
- ・体温測定(非接触)
- ・マスク着用
- ・時間短縮 12時半から36分の例会(卓話なし)
- ・食事を避ける (弁当もなし)
- ・その他 イタリア軒側との調整

開催時期:

6月9日から再開、しばらくは、書面例会も並行して行う

12時半集合

会員の安全、健康保持をイタリア軒と確認、合意をして開催

2 その他

80周年の記念例会を6月中(6月末の例会)に開催してはどうか?

80周年幹事会にて検討し理事会に提案し、審議して頂く

6月末の納会は例年通りの開催は難しい

6月2日 12時～現次委員長によるクラブアッセンブリーのみ開催